

令和2年度 海岸防災林整備事業調査業務（吹上浜地区）の概要

1 目的

鹿児島県日置市・南さつま市の吹上浜地区海岸防災林（図1）では、排水不良によるマツ立ち枯れ被害やマツ材線虫病等の被害により無立木状態に近い林帯もあり、防風等の保安林機能の低下が懸念されるため、再生・整備を必要とする森林区画を把握するとともに、当該海岸防災林の調査・検討を行い再生・整備方針を策定した。

2 再生・整備目標及び方針

当該海岸林では、過去にも松枯れ被害が広く蔓延し、平成8年にはその状況を踏まえた整備計画が策定された。その後、海岸防災林の再生を進め充実した森林へと復旧しつつあったが、防除困難区域から松枯れ被害の煽りを受け、再び松枯れ被害が蔓延しつつあった。また、前砂丘では、風や波による浸食等が進み裸地化している箇所が確認されたことから「病虫害等に強く、求められる保安林機能を確実に発揮する海岸防災林へ再生する」ことを再生・整備目標とした。

整備の考え方としては、現況林分を基に保安林機能の高度な発揮、防災と景観の両立等を目的に将来目指すべき森林を区分（ゾーニング）し、基本的にはマツ材線虫病に関する予防散布等を計画的に実施し、現況林分を維持した上で、密度管理の考え方、湿地箇所等の取り扱い、広葉樹林化の考え方に基づき、ゾーニングで定めた目標林型に沿って整備を行う方針とした。

3 整備計画

吹上浜地区全域に発達している海岸防災林と前砂丘に区分し整備計画を検討した。また、前砂丘については森林区域外の箇所もあることから、関係機関と情報を共有し連携しながら整備を実施する。

海岸防災林については、目標林型毎に定めた整備方針に沿った計画的な事業を実施する。

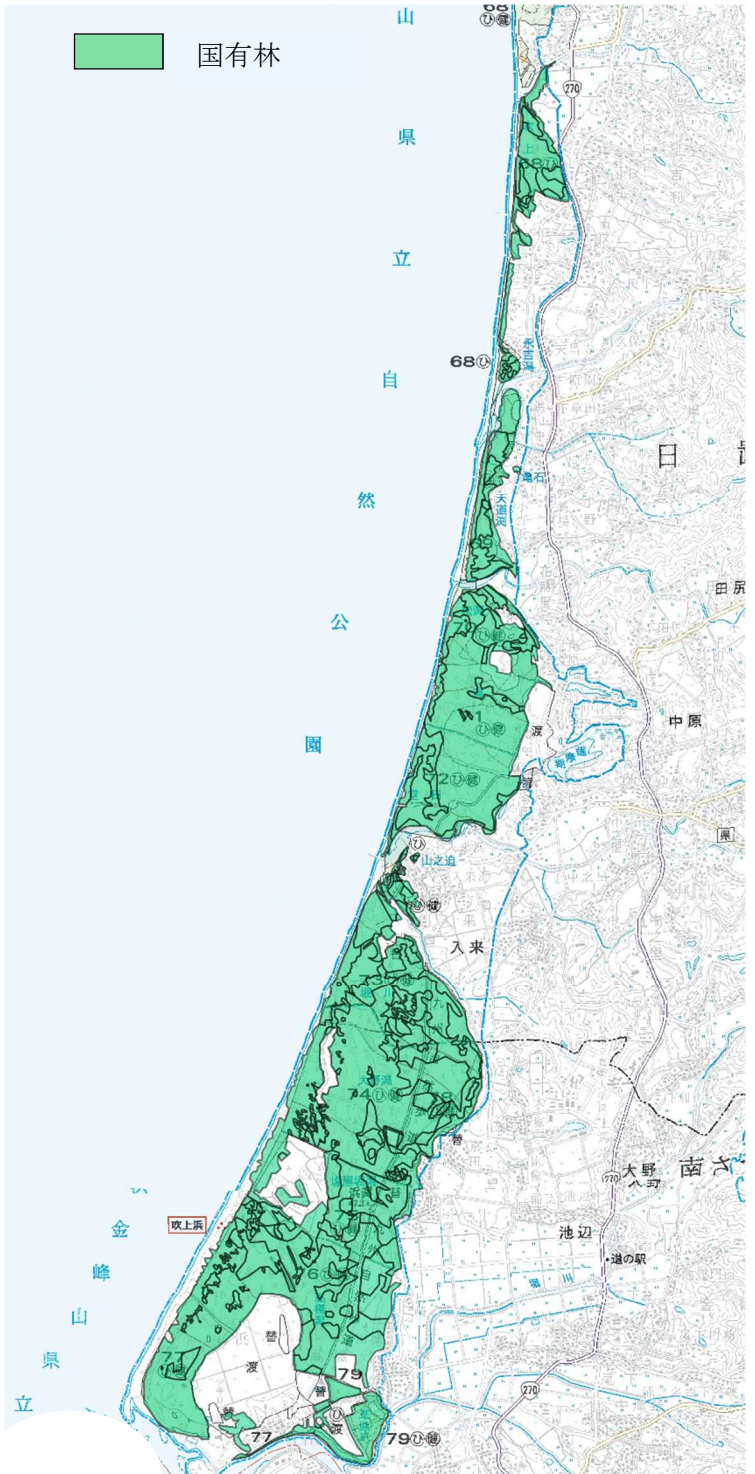


図1 吹上浜地区